

お口の健康応援団
NPO法人口腔健康推進協会サークルi



サークルi 会報

こもれび

「子どもの発達」問題 その1 はじめに

近年、憂慮すべき青少年の問題が次々と生じています。人々は、衝撃的な事件に驚き、戸惑い、そして青少年の心に何か理解し難いものが生じているのではないかと不安や苛立ちを感じています。社会全体の閉塞感がこうした不安や苛立ちに拍車をかけています。私は、20年近くこの青少年問題について、その根底に何かがあるのか理論的・実証的に解明し、対策を講じたいと考え、様々な取り組みを行ってきました。

そこで、浮かび上がったのは、「子どもの発達」問題です。

人間は、乳幼児期、学童期、青年期と成長する過程で次々と直面する「発達課題」に対し、様々な体験・経験を積み学習することを通じて、「情動（喜怒哀楽などの感情）」の基礎を培い、社会性を獲得し、そして社会的な規範意識を形成しながら人間として成長していきます。

しかし、成長の過程自体に重大な問題が生じています。例えば乳幼児期に最も重要な「愛着」形成ができていないことが今日の問題と考えます。

*「愛着」＝人と人との間で形成される相互の親和性（相手と一緒にいることを望み、一緒にいることで大きな安心感、満足感を感じられる関係）

そこで、我々は豊かで便利になった今日の社会にあって、失ってきたものは何かを明らかにし、我々自身の生き方、在り方を見直さなければならないと考えます。

次回から、今日の社会と「子どもの発達」問題の関係について述べていきます。（玉井）

今回から前文化庁長官であり、現在は文部科学省の顧問をされている玉井日出夫氏にご自身の長年のテーマでもある「子どもの発達」問題について、シリーズでご紹介する機会を得ました。皆さま、どうぞお楽しみに。

